

「ライフサイエンス イノベーションセミナー」

～ 現代社会における医療とヘルスケアの融合領域を観る ～

主催： 一般社団法人日本分析機器工業会（JAIMA） 医療機器委員会
JASIS 委員会 プロジェクト小委員会

【セミナー概要】

2001年ホワイトハウスで公表されたヒトゲノム解読宣言から17年目を迎える中、生命の仕組みや機能を解き明かす科学は、指数関数的に加速するICT技術変革に同期しながら著しく進歩を始めています。社会を構成する個々の層（レイヤー）の接点が融合を開始し、グローバルに広がり始めており、特にヘルスケアと医療は過去における独立した社会構図に新しい風を巻き起こそうとしています。このような変革の中、「バイオ」の世界では、過去の産業とは違う側面での多面的な事業展開が起こり始めています。科学の基本をもう一度再認識し、「分析」に関する計測の基本要素や日常に起こりうる現象を正しく観察し、新しい未来を計画することが重要です。また昨今ICTの世界では深層学習やAI（人工知能）がメディアの影響により夢膨らむ希望の言葉として各方面に多く出現していますが、一方で真実を理解されていない状況も多々見受けられます。そこで今回は、医療・ヘルスケアの接点と融合領域に視点を置き、生命科学から生まれる新しいヘルスケアの現状と、分析計測におけるデータの真実性等を紐解き、原点を観なおす講演として今回のテーマを提案させていただきました。

本年9月開催予定のJASIS 2018 ライフサイエンスイノベーションゾーン基調講演では、テーマとして「最先端バイオ医薬・ヘルスケアと分析機器の役割」～ヘルスケア・臨床が近づくバイオメディカルへの道～を取り上げ、”Japan as No.1”を目指すための話題を提供いたしますが、これに先駆けて最新情報をお届けするセミナーを企画いたしました。

多くの方のご来場をお待ちしております。

【日時】 平成30年3月30日（金） 13:00 受付開始 13:20 開始 16:30 終了予定

【場所】 中央大学 駿河台記念館 670号室 〒101-8324 東京都千代田区神田駿河台3-11-5

<交通アクセス>

- ◇ JR 中央・総武線 御茶ノ水駅下車、徒歩3分
- ◇ 東京メトロ千代田線 新御茶ノ水駅下車（B1出口）、徒歩3分

【参加費】① (一社)日本分析機器工業会 会員 …無料

(一社)日本科学機器協会 会員 …無料

② 上記会員以外の方 …3,000円

(下記指定の口座への事前振込をお願いします。)

◆振込口座：

三菱東京UFJ銀行 神保町支店 種別：普通 口座番号：1887180

口座名義：シャ)ニホンブンセキキコウギョウカイ

◆振込期限：平成30年3月19日(月)までにお振込みください。

お振込み済のお知らせをyajima@jaima.or.jp 谷島 宛にご連絡ください。

【定員】 120名（申込み順とし、定員を上回った場合お断りすることがあります。）

【申込方法】参加申し込み用紙（別紙1）に参加者氏名をご記入の上、下記メールにご送付ください。参加費は、各社（各団体）まとめて、企業名（団体名）で指定の口座に事前にお振込みください。振込手数料は申込者がご負担ください。

◆ご聴講申し込み：yajima@jaima.or.jp 谷島 宛（一社）日本分析機器工業会

【申込締切】平成30年3月12日(月) e-mailで必着

【発表プログラム】

13:30 【開会ご挨拶】 一般社団法人日本分析機器工業会 医療機器委員会委員長 飯泉 紀子

13:35 【バイオサイエンスからライフサイエンス新事業化時代の今を観る】

【概要】 バイオサイエンス解析技術全体の概要とライフサイエンス市場での新産業創造において、医療改革を含めて私達が今どの位置に存在し、何が変わろうとしているのかを解りやすく解説。JASIS 特別企画ライフサイエンスイノベーションの目指す方向を示します。

一般社団法人日本分析機器工業会

ライフサイエンスイノベーション 担当アドバイザー

岩瀬 壽

14:00 【科学技術の進歩に潜む知られざる恐怖とは/分析人必見】

【概要】 戦後の急速に進歩した科学技術・IT 技術の発展は、社会の仕組みを大きく改善してきました。これを引き継ぐ若手技術者および一般社会が「あたりまえ」と考える結果中に、過去には解らなかつた真実や、知らねばならない基礎事实在存在します。本講演はこれらの事実を未来の優れた技術者に向けて解き明かします。

国立研究開発法人産業技術総合研究所

バイオメディカル研究部門 主任研究員

根本 直

14:35 【未病時の腸内環境に対する乳酸菌 EF-2001 株の有効性を検証する】

【概要】 乳酸菌にはプロバイオティクス、プレバイオティクス、バイオジェニックスのタイプがある。作用メカニズムの面からヒトへの有効性に関連づけるためにはバイオジェニックスの基礎的研究が妥当である。バイオジェニックスはプロバイオティクスが有していない作用である小腸の免疫効果を発揮できる。即ち、小腸、パイエル板の免疫抗体 IgA 産生能から有効性を検証することが可能であるので、治未病の見地からバイオジェニックスである EF-2001 株の基礎的研究を紹介する。

金沢大学大学院医薬保健学総合研究科臨床研究開発補完代替医療学講座 協力研究員

東北医科薬科大学 名誉教授

横浜薬科大学 客員教授、北海道医療大学 客員教授

只野 武

15:20 休憩

15:30 【胎生期環境からみた次世代の生活習慣病発症機構 -DOHaD 説と Nutri-epigenomics-】

【概要】 栄養を含めた胎生期環境は胎児エピジェネティックを変化させ、その一部は出生も存続して、健康及び生活習慣病の素因となる。これを新たに DOHaD (Developmental Origins of Health and Disease) 説と称する。日本は先進国で群を抜いて高い低出生体重児 (出生体重 2500 g 未満児) 割合が持続しており、次世代の健康が懸念されている。更なる分子機構の解明、エピジェネティック解析による早期のリスク診断及び、栄養学的薬物的介入法が強く求められている。新たな生物学・医療の展開が期待される領域である。

早稲田大学ナノ・ライフ創新研究機構 規範科学総合研究所 招請研究員

千葉大学客員研究員

福岡秀興

16:15 【閉会のご挨拶】 JASIS 2018 ライフサイエンスイノベーション特別企画のお知らせ

岩瀬 壽

16:20 閉会